

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	山形大学
設置者名	国立大学法人山形大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文社会科学部	人文社会科学科 人間文化コース	夜・通信	34	18	76	128	13	
	人文社会科学科 グローバルスタ ディーズコース	夜・通信			60	112	13	
	人文社会科学科 総合法律コース	夜・通信			60	112	13	
	人文社会科学科 地域公共政策コ ース	夜・通信			60	112	13	
	人文社会科学科 経済・マネジメン トコース	夜・通信			56	108	13	
地域教育文化学 部	地域教育文化学 科児童教育コース	夜・通信		14	53.5	101.5	13	
	地域教育文化学 科文化創生コース	夜・通信			29	77	13	
理学部	理学科数学コース	夜・通信		22	0	56	13	
	理学科物理学コース	夜・通信			0	56	13	
	理学科化学コース	夜・通信			0	56	13	
	理学科生物学コース	夜・通信			2	58	13	
	理学科地球科学 コース	夜・通信			4	60	13	
	理学科データサイ エンスコース	夜・通信			0	56	13	

医学部	医学科	夜・通信		0	87	121	19	
	看護学科	夜・通信		0	37	71	13	
工学部	高分子・有機材料工学科	夜・通信		6	0	40	13	
	化学・バイオ学科	夜・通信			0	40	13	
	情報・エレクトロニクス学科	夜・通信			7	47	13	
	機械システム工学科	夜・通信			0	40	13	
	建築・デザイン学科	夜・通信			10	50	13	
	システム創成工学科	夜・通信	4	6	6	16	13	
農学部	食料生命環境学科 アグリサイエンスコース	夜・通信	34	6	22	62	13	
	食料生命環境学科 バイオサイエンスコース	夜・通信			19	59	13	
	食料生命環境学科 エコサイエンスコース	夜・通信			17	57	13	
(備考) 農学部・・・1, 2年次新課程、3, 4年次旧課程								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/syllabus/2020/home.htm>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山形大学
設置者名	国立大学法人山形大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/introduction/officer/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	琉球大学理事・副学長・ 事務局長	2020年4月 ～ 2022年3月	総務
非常勤	株式会社福島銀行 取締役	2020年4月 ～ 2022年3月	施設
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山形大学
設置者名	国立大学法人山形大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業の目的、授業の到達目標、授業概要(キーワード)、科目の位置付け、授業計画、学習の方法、成績の評価、テキスト・参考書、その他(学生へのメッセージ・オフィスアワー)について、シラバスに記載し、全科目をホームページで公開している。さらに、一部の学部では、ホームページに加え、冊子体のシラバスを作成している。 なお、授業計画書の作成過程は以下のとおりである。 ・5月頃～9月頃 教育ディレクターによる次年度の教育プログラムの作成、認定作業を行う。 作成した教育プログラムが、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーと整合性が取れるカリキュラムが編成されているか確認。必要に応じて授業科目の配置等を修正する。 ・9月頃～ 各授業担当者が、詳細な授業計画を作成する。 ・10月頃～翌年2月頃 シラバス作成開始。 各学部の教育ディレクターがシラバスの内容を確認の上、結果を教育担当理事に報告し、完成。 ・3月中旬～4月1日 公表開始。	
授業計画書の公表方法	ホームページ http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/syllabus/2020/home.htm
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各学部教育ディレクターが、シラバス作成時、授業科目ごとに客観的に評価が行える基準となっているか確認をし、その上で、学習・成績評価の方法をシラバスに明記し、学生に公表している。後述するカリキュラム・ポリシーに基づき教育プログラムを作成、ディプロマ・ポリシーに基づき学生の達成度を確認した上で、厳格かつ適正に単位認定を行っている。

なお、本学では、カリキュラム・チェックリストを作成し、個々の授業科目がカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに沿ったものになっているか、各学部の教育ディレクターが確認、それを基に理事特別補佐が教育プログラムを認定している。体系的にカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーが達成できる教育プログラムになっているか確認を行うことで、教育の質保証を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

合格した成績の評定をS、A、B、Cの4段階で行い、成績を平均化したGPA(Grade Point Average)を全学的に導入しており、各学部で作成している学生便覧(入学時に配付・ホームページ公表)に掲載し、公表している。

成績評価は、以下の表に定める区分により行われ、それぞれのGP(Grade Point)が付与される。

評価点	成績区分と評価基準		付与されるGP
100～90点	S	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている。	4
89～80点	A	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている。	3
79～70点	B	到達目標を達成している。	2
69～60点	C	到達目標を最低限達成している。	1
59～0点	F	到達目標を達成していない。	0
	N	単位認定科目であり、GPAの対象としない	なし

GPAは、学習の成績を総合的に判断するための指標であり、各自が修得したそれぞれの単位数にGPをかけ、その合計GPを履修登録した科目(適用除外科目を除く)の総単位数で割って算出する。

各学生等の履修科目の成績に基づき、あらかじめ設定した上記の算出方法によりGPAを算出し、アドバイザー教員等による学修指導を行う際の指標としている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページ http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yuss/gpa.html 学生便覧に掲載(入学時に配付) https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/handbook/
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】 本学の卒業の認定に関する方針は以下のとおりである。 「山形大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間以上在学し、豊かな人間性と社会性、幅広い教養と汎用的技能、所属学部において定める専門分野に関する知識と技能を身につけ、所定の科目を履修し単位を修得した者に学位を授与します。」 また、上記大学全体のディプロマ・ポリシーに加え、学部単位のディプロマ・ポリシーを策定し、学生便覧（入学時に配付）及び大学のホームページにおいて公表している。各ポリシーに則り、単位認定を行い、適切に卒業判定を行っている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/policy/ 学生便覧に掲載（入学時に配付） https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/handbook/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山形大学
設置者名	国立大学法人山形大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22_finance/
収支計算書又は損益計算書	ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22_finance/
財産目録	———
事業報告書	ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22_finance/
監事による監査報告(書)	ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/corporate22/corporate22_finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和2年度 国立大学法人山形大学 年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法:ホームページ
https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/middle/third/
中長期計画(名称:国立大学法人山形大学 中期目標・中期計画 対象年度:平成28年度～令和3年度)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/check/self/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/check/organization/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文社会科学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/faculty/ ）
（概要） 人文科学と社会科学の基礎的分野の教育・研究を通して幅広い視野と探求力を教授し、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持ち、社会の要請に対し、独創性と柔軟性をもって対応できる人文科学及び社会科学の専門的素養を持った人材の育成を目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/7315/6142/3562/2019huma00.pdf ）
（概要） 山形大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、人文社会科学部では、基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識・姿勢・能力を獲得した学生に、履修コースに応じて「学士（文学）」、「学士（学術）」、「学士（法学）」、「学士（政策科学）」及び「学士（経済学）」のいずれかの学位を授与します。 1. 豊かな人間性と社会性 （1） 現代的な課題、特に地域の課題について関心を持ち、課題解決のために様々な立場の人々と意見を交換しつつ構想をまとめ、これを実行することができる。 （2） 将来の職業的課題に関し、社会の中での自らの役割を自覚しながら展望を描き、そのための適切な準備を実行することができる。 2. 幅広い教養と汎用的技能 （1） 学術的・社会的課題に関する高度な内容を、日本語によって適切に説明するとともに、日本語以外の言語によってもテキストを読み、コミュニケーションをとることができる。 （2） 情報機器の操作能力に加えて、情報セキュリティを含む情報管理能力を身に付けた上で、学術的・社会的課題を統計や調査によって分析し、効率的な情報発信や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 3. 専門分野の知識と技能 （1） 世界から地域に至るまでの様々なレベルの文化や社会制度に関して学び、現代的市民としての領域横断的な教養及び他者（異文化）を受容する能力を身に付けている。 （2） 人文社会科学の専門領域について中核となる学術的成果を修得し、これに関して問題を発見し、論理的・批判的思考の結果を意見としてまとめることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/7315/6142/3562/2019huma00.pdf ）
（概要） 山形大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、人文社会科学部学生が体系的かつ主体的に学修を進めることができるように教育課程を編成し、これに従って教育を行うとともに、明確な成績評価基準によって学修の成果を評価します。 教育課程の編成・実施等 （1） 地域社会の現代的な課題の発見や解決に寄与できるように、企業や自治体あるいは海外の大学などと連携した多彩な実践科目を配置する。

- (2) 将来の職業選択の準備が適切にできるように、キャリア関連の科目を配置する。また、1年次から高年次に渡って、インターンシップ科目を配置する。
- (3) 日本語で発信する能力の養成をめざした演習科目を配置する。また、英語の幅広い能力を獲得するための科目を拡充する。さらに、多様な言語の能力を養うために、初修外国語を必修科目として配置する。
- (4) 1年次の「情報処理」に加え、2年次以降において、社会調査法に関する講義、コンピュータ実習を交えて統計学の基礎を学ぶ演習及びデータ処理力を養成するための演習からなるジェネリックスキル科目を配置する。
- (5) 現代社会で活躍するために必要な知識と教養を身に付け、他者や異文化への柔軟な理解力を養成するために、多様な教養科目や専門科目を編成する。また、クロス・ディシプリナリーな教育を実現するための学部共通科目群を配置する。
- (6) 人文社会科学の高度な「専門知」を獲得し、論理的な思考能力を養うために、専門基礎科目と専門展開科目による体系的教育を編成する。併せて、充実した少人数教育による専門科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/7315/6142/3562/2019huma00.pdf> ）

（概要）

人文社会科学部は、人文科学・社会科学の全領域に及ぶ多彩な専任教員を擁する総合学部です。人間や社会に関して多岐にわたる教育研究が活発に行われ、教育力、研究力ともに高水準で充実した内容を誇っています。学生は徹底した少人数教育の中で鍛えられ、卒業後は全国で公務や教育の現場で、あるいはビジネスの第一線で活躍しています。

人文社会科学部の求める学生像は以下のとおりです。

求める学生像（3つのC）

Challenge：人文社会科学の諸分野に対する強い関心と勉学への意欲を持っている人

Cooperation：多様な価値観を尊重し、協調性を持って、倫理的に行動できる人

Contribution：活力ある社会の実現に貢献する意欲を有する人

学部等名 地域教育文化学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/faculty/ ） （概要） 地域における教育及び健康文化・芸術文化を構成する諸科学の教育・研究を通じて幅広い視野と探求力を教授して、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持ち、地域課題の解決に独創性と柔軟性を発揮して取り組み、地域社会の自律的な発展に寄与する実践的な人材の育成を目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/2815/6142/3664/2019edu00.pdf ） （概要） 山形大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、地域教育文化学部では基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（教育学）」（児童教育コース）、「学士（学術）」（文化創生コース）の学位を授与します。 1. 豊かな人間性と社会性 （1）自ら主体的に問題意識を持ち、常に学び続けることができる。 （2）良識ある市民として高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。 （3）地域社会とともに学び地域に貢献する意欲のもとに、多様な考え方や異なる立場を尊重し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。 2. 幅広い教養と汎用的技能 （1）地域の文化創生全般にわたる基本的知識がある。 （2）複数専門分野のコラボレーションの有効性を基盤とした実践力がある。 （3）地域課題を世界的な視野の中で大局的に捉えることができる国際感覚を身に付けている。 （4）地域課題に柔軟に対応し、他者と協働しながら課題解決に取り組むことができるコミュニケーション能力がある。 3. 専門分野の知識と技能 （1）地域の教育及び文化創生のために修得すべき専門的知識や技能を身に付けている。 （2）専門的に学んだ分野を基盤とし、さらに、幅広い分野の知識や技能を活用しながら地域の教育及び文化創生に関する課題の解決に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/2815/6142/3664/2019edu00.pdf ） （概要） 山形大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。 教育課程の編成・実施等 （1）基盤共通教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1（英語）を履修し、英語活用能力の向上を促す。 （2）学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。 （3）「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、地域貢献・地域創生を实践するための基本となる科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を地域課題の解決

を目指して総合的に活用し企画・運営・実行していく実践演習群の「フィールドプロジェクト」とで編成する。

(4) 基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。

(5) 各コースに6年一貫履修プログラムを含む複数のプログラムを配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/2815/6142/3664/2019edu00.pdf> ）

（概要）

地域教育文化学部は、地域における教育及び健康文化・芸術文化を構成する諸科学の教育・研究を通じて幅広い視野と探究心、豊かな人間性に基いた責任感と倫理観を持ち、独創性と柔軟性をもって地域課題に取り組み、地域社会の自律的な発展に寄与する実践的な人材の養成を目的とします。

地域教育文化学部の求める学生像は以下のとおりです。

1. 求める学生像（3つのC）

Challenge : 広い視野に立って、新しいことに挑戦しようとする意欲のある人

Cooperation : 課題に積極的に取り組む行動力、他者を受け入れる包容力、社会性とコミュニケーション能力を備えている人

Contribution : 今日的社会課題とその課題解決に強い関心があり、地域文化の活性化に貢献できる職業に就きたい意欲・情熱を持っている人

<児童教育コース>

本コースでは、高等学校までの基礎的な学力・実技能力を身に付けて、学校・地域・家庭の連携と相互信頼関係の必要性を理解し、今日的社会の要請に応える高度な専門性を有する小学校教員を目指す意欲をもった学生を受け入れます。また、小学校教員に加えて、幼児や障がいのある子どもへの適切な指導を行うことのできる教員や、中学校5教科（国語、社会、数学、理科、英語）のいずれかの専門的知識を有する教員になることを希望する学生を受け入れます。

地域教育文化学科・児童教育コースの求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

・小学校教員を目指す人

・小学校教員免許に加えて、幼稚園、特別支援学校、中学校・高等学校5教科（国語、社会、数学、理科、英語、高等学校社会は地歴）のいずれかの免許取得を目指す人

・各教科にわたる基礎的な知識と探究心を備えている人

・地域社会における教育的支援・援助に対する意欲のある教員を目指す人

・子どもを受けとめられる包容力や寛容な心、他者とのコミュニケーション能力や協調性を有する人

<文化創生コース>

本コースは、地域社会の持続可能な発展を「こころ」と「からだ」の両面から支援し、市民の主体的な地域文化創生を支援する意欲をもった学生を受け入れます。そのために、高等学校までの基礎的な学力や、得意分野に関するすぐれた理解・技能を有して、地域文化のコーディネーター・ファシリテーターを目指す意欲をもった学生を受け入れます。

地域教育文化学科・文化創生コースの求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・地域における健康支援や文化的活動に興味や関心のある人
- ・心理学、栄養学、食品学、スポーツ科学など心身の健康に貢献する学門分野に興味や関心のある人
- ・音楽、美術、デザインなど芸術文化に関する分野に興味や関心のある人
- ・保健体育科、音楽科、美術科の中学校・高等学校教員を目指す人

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/faculty/ ）
（概要） 知的探究心に基づき自然界の普遍的真理を追求するとともに、未来を担う若者に自然科学の基礎を教授することを通じて、自然環境と調和し共生する人類社会の発展に貢献する人材の育成を目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/1515/6142/3686/2019sci00.pdf ）
（概要） 山形大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、教育プログラム（理学）では、基盤共通教育、基盤専門教育及び卒業研究などを通じて、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（理学）」の学位を授与します。 1. 豊かな人間性と社会性 （1） 良識ある市民として高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。 （2） 地域社会や国際社会で貢献する意欲をもち、他者の多様性を尊重して、異なる文化や考え方をもつ人々と協同できる。 2. 幅広い教養と汎用的技能 （1） 数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学などの理学全般にわたる科学・技術の基礎知識を身に付けている。 （2） 自然科学だけでなく、人文科学や社会科学における基本的な知識を身に付けている。 （3） 日本語及び英語で適切に情報を収集し、それらを活用できる基礎的な語学力を身に付けている。 （4） 幅広い教養に基づいて社会の問題を認識し、他者と協働しながら課題解決に取り組めるコミュニケーション能力を身に付けている。 3. 専門分野の知識と技能 （1） 選択したコースカリキュラムの専門的知識を身に付け、その分野の先端的な研究内容を理解し、説明できる能力を身に付けている。 （2） 選択したコースカリキュラム以外の幅広い理学の基礎的知識を身に付けている。 （3） 専門的な素養を基盤に科学的思考方法に従って社会が要請する課題を解決する能力を身に付けている。 （4） 「フロンティアプログラム」の履修者は、上記（1）～（3）に加えて、より高度で先端的な理学の専門知識と実践的な研究能力を身に付けている。 （5） 「サイエンスコミュニケータープログラム」の履修者は、上記（1）～（3）に加えて、専門知識をもとに教育、科学普及、学術振興の場において社会に貢献できる能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/1515/6142/3686/2019sci00.pdf ）
（概要） 山形大学の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、教育プログラム（理学）では、理学部学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行い、明確な成績評価方法・基準に基づき評価を行います。 教育課程の編成・実施等 （1） 社会生活における広い視野・コミュニケーション能力・健全な批判精神等の醸成、並びに高等学校教育との接続に留意した理学分野の基礎的教育を基盤共通教育において行う。 （2） 専門分野の知識を修得させるため、講義科目、実験科目、演習科目などを適

切に組合せた基盤専門教育のカリキュラムを国際標準に準拠して体系的に編成する。また、課題の解決能力と研究基礎力の向上を図るため卒業研究を配置し、専門分野の最先端にも触れさせる。

(3) 専門分野以外の学問領域や国際交流、地域社会との連携にも関心がもて、幅広い理学の学際的知識が身に付く科目を配置する。

(4) 理学を含む幅広い知識を有する社会人として、地域社会や世界が抱える問題の解決に貢献する職業を目指す学生を対象とした「スタンダードプログラム」を配置し、自然科学と社会科学の幅広い基礎的知識に基づいた柔軟な発想力と独創性を養成する。

(5) 科学技術の高度な専門的知識・技能を備えた職業人を目指す学生を対象とした学部・大学院6年一貫教育の「フロンティアプログラム」を配置し、上記(4)に加えて、より高度で実践的な理学の専門知識と研究遂行能力を養成する。

(6) 教員や科学普及、学術振興に寄与する職業を目指す学生を対象とした「サイエンスコミュニケータープログラム」を配置し、上記(4)に加えて、科学の専門的内容とその社会的意義を人々に分かりやすく伝える能力を養成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/1515/6142/3686/2019sci00.pdf> ）

（概要）

理学部は、自然科学の基礎的分野の教育・研究を通して幅広い視野と探究力を教授し、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持ち、社会の要請に対し、独創性と柔軟性をもって対応できる自然科学の専門的素養を持った人材の育成を目的としています。

山形大学の教育目標を踏まえ、教育プログラム（理学）では、理学の幅広い知識を教授して自然の真理を追究する柔軟な発想力と広い視野を育て、分野横断的な教育・研究を重視した先進的な専門教育により科学的な思考力・表現力・方法論を修得させます。卒業後、独創性と柔軟性をもって様々な分野で人類社会の発展に貢献できる人材の育成を目標としています。

理学部の求める学生像は以下のとおりです。

求める学生像（3つのC）

数学や自然科学の学修に必要な基礎的な学力、論理的思考力及び主体的学習力を持ち、次の3要素（3つのC）を備えていること。

Challenge： 数理の世界や自然界のさまざまな現象に強い興味と好奇心を持ち、真理探究や未知なるものの発見や創造に挑戦できる人

Cooperation： 高い倫理観と協調性を持ち、身につけた知識をわかりやすく表現する能力と多様な人々との交流に必要なコミュニケーション能力を持つ人

Contribution： 人間社会の抱える問題を認識し、その解決に向けて、理学的な視野で積極的に貢献しようとする意欲をもつ人

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/faculty/ ）
（概要） 地域医療の中核として医療レベルの向上のために不断の努力をはらっていく中で、専門分野における最新の知識・技術とともに、医療人としての認識を高め、それにふさわしい態度を習得させます。さらに、これを生涯にわたって主体的に研鑽することのできる持続的向上心を持った医師・看護職者の育成を目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/9415/6142/3749/2019med00.pdf ）
（概要） 山形大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、医学部では医学・医療の今後の発展を担う優秀な医師、医学研究者、看護職者を育成する観点から、基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下に示す知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（医学）」及び「学士（看護学）」のいずれかの学位を授与します。 1. 豊かな人間性と社会性 （1） 良き医療人及び研究者としての素養を培うため、文化や社会、自然も含めた幅広い学問分野に関心を持ち、自主的、自律的に学び続けることができる。 （2） 医療人として求められる、生命の尊厳への理解と、医学的課題に立ち向かおうとする意欲（Challenge）、医学研究や医療に従事し社会貢献（Contribution）するために不可欠な高い倫理観と使命感を持っている。 （3） 地域医療の重要性を含め医療・医学に関する社会的なニーズや課題に関心を持ち、それらに対する自己の意見を持ち、筋道を立てて説明することができる。 （4） 社会の一員として円滑な協働（Cooperation）を行う上で必要な意思疎通及び相互理解・尊重の重要性を理解している。 2. 幅広い教養と汎用的技能 （1） 医学や医療に関する社会の仕組み、生活環境、健康や医療を取り巻く様々な課題について学び、それを基に判断し、行動できる。 （2） 国内外における社会と人々の生活の変化に関心を持ち、膨大な情報の中から正しい情報を取捨選択し、現代医療の役割、機能、責務を理解できる。 （3） 多職種が関わる医療現場で活躍できるよう互いに連携・協働するためのコミュニケーション能力を持っている。 3. 専門分野の知識と技能 （1） 医学全体の基盤となる基礎医学について、臨床医学の理解と問題解決に繋がる専門的な基礎知識を持っている。 （2） 人体各臓器にみられる疾病や創傷の原因や仕組み、またそれらの診断・看護・治療を理解している。 （3） 実際の診療・看護に必要な基本的診断能力や鑑別診断能力を身に付けている。 （4） チーム医療、医療安全、患者中心の視点、コミュニケーション能力など、医療人としての職責や普遍に求められる知識と技能を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/9415/6142/3749/2019med00.pdf ）
（概要） 山形大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、医学部学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育

を行います。

教育課程の編成・実施等

(1) 医学部のカリキュラム編成では、モデル・コア・カリキュラム、国家試験出題基準、医学教育分野別評価基準など、国際標準に準拠した体系性・順次性のある授業科目を配置する。

(2) 基盤共通教育においては、豊かな人間性と社会力、高い倫理観を醸成する科目の習得と、基礎医学の一部を学び、専門課程への円滑な移行を目的としたカリキュラムを編成する。

(3) 専門教育においては、生命科学の基盤となる基礎医学、医学や医療に関する社会の仕組みや生活環境を学ぶ社会医学、様々な疾病の原因や診断、治療を学ぶ臨床医学、あるいは様々な健康問題に対処する看護学に関するカリキュラムを編成する。

(4) 上記科目における基礎知識を習得した後、地域病院と密接に連携した臨床実習での実践的な医療への参加を通じて、基本的診断能力や鑑別診断能力、他者とのコミュニケーション能力などの習得を目的としたカリキュラムを編成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/9415/6142/3749/2019med00.pdf> ）

（概要）

医学部には、医学科と看護学科の2学科があります。

医学科は、新設医学部・医科大学の一期校として昭和48年に地域医療の中核として設立され、以来、「広い視野を持ち、自ら学び、考え、創造し、それらを生涯にわたって発展させることのできる医師及び医学研究者を養成する」という建学の精神に基づき、すでに4,275人の卒業生を世に送り出しています。

看護学科は、平成5年に東北・北海道地区ではじめての国立4年制大学として設立されました。時代の要請に柔軟に対応できる知識・技術と豊かな人間性を備えた看護職者を養成し、すでに1,508人の卒業生を医療人及び専門的研究者として世に送り出しています。

医学部の学生は卒業後、地域医療の第一線をはじめとして、日本各地の様々な医療機関で、また国際的にも世界各地の研究機関で広く活躍しています。今後さらに地域に根ざし世界で活躍する医療人を育成するため、医学部は以下の「求める学生像」に記された資質を持っている人を受け入れます。

◆求める学生像（3つのC）

Challenge：科学的研究心が強く、現代の保健医療が抱える諸問題の解決に自ら考え、粘り強い学習意欲を持って挑戦できる人

Cooperation：医療人に求められる高度な倫理観と豊かな人間性を備えていることに加え、医療活動がチームで行われることをよく理解して共に働く人々と良好な人間関係を形成できる人

Contribution：世界水準の医学看護学を背景に、高度な地域医療の実践を通じて人類の健康福祉に貢献する意欲をもつ人

医学科

「人間性豊かな、考える医師の養成」を建学の精神として、綿密なカリキュラムに基づく厳格な医学教育が行われています。

ヒトゲノム解析など、めざましい先端的な医学研究の進歩を柔軟に医学教育に反映させたカリキュラムの編成により、最新の医学知識を学ぶことができます。達成可能な現実的な目標を設定し、問題解決型の医師の養成をめざした臨床医学教育を実施するためのカリキュラムがきめ細かく編成されています。

卒業生の多くは地域及び日本各地の医療機関で臨床医として医療活動に従事していますが、医学研究者として大学・研究所等で活躍している人も数多くいます。

医学教育に加えて、附属病院や地域の病院における診療を通じた地域医療への貢献とともに、様々な国際的な医学研究への参画と民間との共同研究も行われています。

このように医学科では、最先端の医療・医学研究の実践を背景に地域に根ざして世界にはばたく

医師・医学者の育成を行っています。このような医学科の求める学生像は以下のと

おりです。

◆求める学生像

- ・生物学・医科学分野に対する広い興味を持ち、科学的探求心が強く、旺盛で持続的な学習意欲を持つ人
- ・心身ともに健康で、柔軟性に富み、倫理性の高い人
- ・協同作業を行う人々と円滑な人間関係を形成できる高いコミュニケーション能力を持つ人
- ・地域医療を含め、幅広く医療に貢献することへの志と強い使命感を持つ人

看護学科

生命の尊厳と人権の擁護を重んずる倫理観を基盤とし、誠実で豊かな人間性を備えた看護師・保健師・助産師を育成する看護学教育を行っています。

保健・医療・福祉に関わる人々と協働して、根拠に基づく安全な看護を提供できる人材を育成するためのカリキュラムを編成しています。

社会と人々の生活の変化を敏感に捉え、看護の役割・機能・責務について必要に応じた変革を実行できる看護職者を育成することを教育理念としています。

卒業生の多くは地域及び日本各地の医療機関で看護師、保健師、あるいは助産師として活躍しています。また、教育研究者として大学で活躍している人や海外で活動する人も増加しています。

このように看護学科では、社会からの多様なニーズに応え、人々の健康と福祉の向上に貢献できる看護職・看護教育研究者の育成を行っています。このような看護学科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・人々の健康と福祉に強い関心を持ち、科学的に追及する姿勢と持続的な学習意欲を持つ人
- ・心身ともに健康で、誠実で高い倫理性を持つ人
- ・他人への思いやりと円滑な人間関係を形成できるコミュニケーション能力を持つ人
- ・看護職として保健・医療・福祉に貢献することへの強い意志を持つ人

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/faculty/ ）
（概要） 自ら新分野を開拓する能力を育てる大学を理念とし、人類の幸福のため広い視野と健全な価値観、深い専門知識を持ち、忍耐強く実践する力、創造力、自主的行動力、コミュニケーション力を有する技術者の育成を目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/2815/6142/3810/2019eng00.pdf ）
（概要） 山形大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、工学部では基盤共通教育及び専門教育を通じて、以下のような知識、態度及び能力を獲得し、修得した単位数が基準を満たした学生に「学士（工学）」の学位を授与します。 1. 豊かな人間性と社会性 （1） 健全な価値観と技術者倫理観を身に付けている。 （2） 社会的・職業的に自立する意識、社会と産業の発展に貢献する意識及び課題解決に果敢に取り組む挑戦意欲を身に付けている。 2. 幅広い教養と汎用的技能 （1） 論理的な思考力と記述力及び豊かな発想力を持って、課題を解決に導く能力を身に付けている。 （2） 社会の一員として協働的に仕事を進めるため、協調性、計画性、行動力及びコミュニケーション基礎能力を身に付けている。 （3） 国際的視点から多様な価値観と文化背景を理解し、課題解決を先導できる能力を身に付けている。 3. 専門分野の知識と技能 （1） 工学の基礎知識を習得し、それらを応用する能力を身に付けている。 （2） 常に進歩する科学技術と実社会との関わりを理解し、これらの変化に対応して自発的かつ継続的に学習できる能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/2815/6142/3810/2019eng00.pdf ）
（概要） 山形大学の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、工学部学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。 教育課程の編成・実施等 （1） 工学の基礎としての数学、物理学及び情報処理を習得するための基礎的科目を配置する。 （2） 工学の深い専門知を身に付けるための応用的な講義、実験及び演習科目を配置する。 （3） 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力及び国際的コミュニケーション基礎能力を身に付けるため、卒業研究、実験、演習、外国語科目を配置する。 （4） 健全な価値観と倫理観を身に付けるため、社会と倫理の理解などに関する科目を配置する。 （5） 豊かなキャリアの実現に向けた職業観と生涯自己学習能力を養うため、キャリアデザイン、実践力の養成などに関する科目を配置する。 （6） 新産業と新技術を創成する能力を身に付けるため、最先端の科学技術が習得できる科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/2815/6142/3810/2019eng00.pdf> ）

（概要）

山形大学工学部は、人絹（レーヨン）を国内で最初に開発し日本の繊維産業の発展に貢献した米沢高等工業学校を前身とし、現在でも高分子（プラスチック）に関連した研究では質・量ともに日本をリードする東日本屈指の規模を擁する工学・技術系の学部です。このような伝統と環境の下で「人間性が豊かで数理に強く実践力のある技術者」を養成して我が国の産業と科学技術の発展に大きく寄与し続けています。

工学部の教育プログラムは、昼間コースに高分子・有機材料工学科、化学・バイオ工学科、情報・エレクトロニクス学科、機械システム工学科、建築・デザイン学科、フレックスコースにシステム創成工学科の併せて6学科及び工業数学・物理学担当の共通講座で構成されています。これらの教育プログラムを通して、21世紀の社会と産業の変革に呼応し、「自ら新分野を開拓する能力に溢れた人材の育成」を目標に工学教育を一層充実させ、研究活動を活性化して、科学技術の高度化、産業のグローバル化をリードする教育研究機関としての役割を果たしています。

工学部では、これらの目標達成のため、上記5学科からなる昼間の授業を履修する課程としての昼間コースと、今後益々重要性を増す学際領域の人材育成を目指す課程として、夜間の授業に加えて昼間コースの講義も履修できるフレックスコースを設置しています。フレックスコースは授業料が昼間コースの半額で、米沢キャンパスにおける一貫した少人数教育の実施等、大学院への進学も念頭に置いた教育カリキュラムを実践しています。

工学部の求める学生像は以下のとおりです。

◆ 求める学生像（3つのC）

Challenge：自然科学や科学技術に対する関心が高く、勉学に対する意欲にあふれ、身のまわりのいろいろなことに好奇心をもって新しいものを創ること、工夫することに情熱を持って取り組める人

Cooperation：他人への思いやりの心と健全な倫理観を持ち、社会の中での協調性を保ちながら、自ら考えて決断し行動できる人

Contribution：広く社会に目を向け、工学を通して社会に貢献したい人

〔昼間コース〕

高分子・有機材料工学科

高分子・有機材料は、金属、セラミックスと並ぶ三大材料の一角を占めており、電子・情報産業から、エネルギー、環境、自動車、航空、宇宙産業、さらには医療・福祉産業に至るまで、我が国の「物づくり」の基盤を支えています。

本学科では、健全かつ幅広い教養と工学の基礎知識に加えて、高分子・有機材料に関して分子レベルから材料レベルまで一貫した幅広い専門知識と深い専門知識の両方を有し、技術開発における現状と問題点を論理的かつ合理的に解析・理解し、それを踏まえて新しい取り組みに対して自発的に行動できる研究者、技術者を育成する教育・研究を行います。

高分子・有機材料工学科の求める学生像は以下のとおりです。

◆ 求める学生像

・高分子・有機材料、自然科学や科学技術に対する関心が高く、勉学に対する意欲と吸収力にあふれ、何事に対しても好奇心と情熱をもってチャレンジできる人

・コミュニケーション能力を有し、他人への思いやりの心と健全な価値観と倫理観を持ち、社会の中で協調性を保ちながら、自ら考え決断・行動し、成長し続けられる人

・広く社会に目を向け、高分子・有機材料工学の技術を通して、強く社会に貢献したい人

化学・バイオ工学科

化学・バイオ工学科は、環境、エネルギー、食糧、医療に代表される21世紀型の諸問題を科学技術の発展により解決するために、その基盤となる化学及びバイオ分野の専門知識と基本技術に関する教育を行い、様々な産業分野で活躍できる人材を育成する教育・研究を行います。

化学・バイオ工学科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・勉学や科学技術に対する意欲にあふれ、何事にも積極的に取り組める人
- ・社会の中で協調性と正しい倫理観を持って自ら行動できる人
- ・応用化学、化学工学、バイオの知識と技術を通して社会に貢献したい人

情報・エレクトロニクス学科

情報・エレクトロニクス学科は、“情報”と“もの”が融合した次世代の高度情報化・ネットワーク社会に貢献できる心豊かな工学技術者を育成する教育・研究を行います。情報科学に関するコンピュータやネットワークなどのソフトウェア分野と、エレクトロニクスに関する電子物性からエネルギー工学に関わるハードウェア分野との融合領域を共通基盤として、希望に応じた分野ごとの専門的な学習を深めます。さらに、実践的な実習・演習を通じて、社会のニーズに応えられる専門知識を習得し、新しい分野へ応用できる能力を育みます。

情報・エレクトロニクス学科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・情報科学や電気・電子通信工学を通して、次世代の高度情報化・ネットワーク社会に貢献し、学習意欲と協調性がある人
- ・テクノロジーの基礎となる数学、物理、英語を積極的に学習できる人
- ・新しい分野への好奇心とチャレンジ精神のある人

機械システム工学科

機械システム工学科は、機械工学の知識を基礎として、技術が社会や自然に与える影響と技術者が負う責任を熟知し、独創性と創造性に富んだ技術開発を通して、地域・日本のものづくり産業の活性化と社会の発展に国際的視点から貢献できる人材を育成するための教育を行います。

自動車、航空機、船舶、精密機器、ロボット、エネルギー変換などの従来からの機械工学の基幹分野はもとより、生体工学、医用工学、知能工学などを含むより広範な工学分野で活躍可能な人材を輩出します。

機械システム工学科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・新しいことに挑戦し、地域・日本・世界で羽ばたく意欲のある人
- ・技術が社会や自然に与える影響と技術者が負う責任を熟知し、何をなすべきかを真剣に考える人
- ・ものづくりが好きで機械に興味があり、機械技術を通してものづくり産業の活性化に貢献したい人

建築・デザイン学科

建築・デザイン学科は、建築・デザインに関する分野における活動を通して、世界を見据えた幅広い視野を持ちつつ地域固有の文化を理解し、積極的に地域と関わり、地域社会の課題解決、地域産業の振興に貢献できる人材を育成する教育・研究を行います。

建築設計、都市計画、建築史、構造工学、建築環境、工業デザインなど、建築・デザインに関わる学問分野を中心に、他の工学分野とも連携して学際領域で新しい価値を創成することを目指します。

建築・デザイン学科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・建築・デザインから他の工学分野にわたる幅広い知識と技術に興味のある人
- ・積極的に地域と関わり、地域社会の発展に貢献できる人
- ・世界を見据えつつ、地域で実践する意欲のある人

〔フレックスコース〕

システム創成工学科

システム創成工学科は、1年次から4年次まで米沢キャンパスで講義、実習等を履修します。自身が学ぶ専門分野は、工学の基礎（数学、物理、化学、機械工学の基礎）を学んだ上で、1年次後期に決定し、2年次以降は各自が選択した専門分野の勉

強を昼間コースの学生と一緒に履修していく教育カリキュラムとなっています。また、システム創成工学科では、一人一人の学生が、基礎学力や専門知識をうまく活用し、社会人として活躍していくうえで必要となる基礎的能力を養成するために、地元自治体や他大学と連携し、大学のキャンパス内では収まらない授業も展開しています。

さらに、このフレックスコースには下記のような特長があります。

- (1) 入学料・授業料が昼間コースの半額
- (2) 数学・物理などの基礎科目については少人数制教育を実施
- (3) 一部研究室では、1年次から審査を経てゼミに参加可能
- (4) 社会人の生涯学習の場としての機能も備え、夜間開講科目のみの履修でも4年間で卒業可能

システム創成工学科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・最先端のものづくり産業で活躍することで、地域社会や国際社会に貢献したい人
- ・工学への強い興味を持ち、自己研鑽に励むことで、自らを高めようという意欲のある人
- ・柔軟な広い視野を備え、新しいことに挑戦するプロフェッショナルとしての社会人を目指す人
- ・将来、ものづくり企業で管理職や経営者として活躍したいと考えている人
- ・数学・物理・語学などの基礎学力をバランス良く持っている人
- ・学業以外の部活動やボランティア活動などに積極的に参加している人
- ・バイタリティにあふれ、科学技術の分野で夢や希望を持っている人

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/faculty/ ）
（概要） 地球規模での食料、資源・エネルギー、環境問題の解決に向けて、食料、生命、環境科学に関して強い好奇心と探求心を育み、専門知識や技術を深めるとともに、課題解決能力や他専門分野からの視点も反映できるバランスの取れた総合的判断力を身につけた人材の育成を目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/9215/6167/9239/2019agri00.pdf ） （概要） 山形大学の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、教育プログラム（農学）では、基盤教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識や能力を獲得した学生に「学士（農学）」の学位を授与します。 １．豊かな人間性と社会性 (1) 人類の叡智と多様性に関心を持ち、洞察力をもって主体的、自律的に学び続けることができる。 (2) 健全な批判精神を持つ良識ある市民としての倫理観と責任感を持っている。 (3) 変化する社会の諸問題に他者と協働的に挑戦し、地域から世界へ羽ばたく勇気がある。 ２．幅広い教養と汎用的技能 (1) 自分がどのような社会状況の中で生きているかを認識し、それをもとに判断し、行動できる。 (2) 現代社会を生き抜くための基本技能として、論理的思考力とチームワーク力及び膨大な情報の取捨選択力を身につけ、社会生活に活用できる。 (3) 他者の多様な価値観を理解し、自らの考えを論理的に説明することにより、相互理解を促進するコミュニケーション能力がある。 ３．専門分野の知識と技能 (1) 食料、生命、環境科学について総合的な判断力とバランス感覚を身につけている。 (2) 食料、生命、環境科学について強い好奇心と探求心を身につけている。 (3) 選択したコースの専門的な知識、技術、情報処理方法、語学力を身につけている。 (4) 基礎科学と基礎技術に関する知識を多角的に使うことができ、多面的に応用できる技能を身につけている。 (5) 研究実行力、科学的思考力、問題解決力を身につけている。 (6) 「基幹プログラム」の履修者は、上記(1)～(5)に加えて、選択したコースにおけるより高度な専門知識や技術を身につけている。 (7) 「国際展開プログラム」の履修者は、上記(1)～(5)に加えて、グローバル化の進む日本社会の課題を解決するための国際的感覚や語学力を身につけている。 (8) 「地域創生プログラム」の履修者は、上記(1)～(5)に加えて、地域の活性化とその好循環の維持を実現するための地域社会をマネジメントする能力を身につけている。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ホームページ https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/9215/6167/9239/2019agri00.pdf ）

(概要)

山形大学の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、教育プログラム（農学）では、農学部学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

教育課程の編成・実施等

- (1) 学士課程基盤教育においては、豊かな人間力と社会力を醸成する基盤教育科目と、専門分野の中核となる概念や原理を理解する基盤専門科目とが有機的に構造化されたカリキュラムを編成する。
- (2) 食料、生命、環境科学について総合的で幅広い知識を持つため、基盤専門科目において、コース配属前の学生に対し、専門基礎導入科目を開講し、幅広い分野の教育を展開する。コース配属後も、幅広い分野の教育を受けられるように学科共通科目やコース選択科目を配置する。
- (3) 強い好奇心と探求心、諸課題への高い見識と展望を持って自ら解決する能力と、総合的な判断力を有した学生を育てるため、講義科目と実験・実習、演習科目とを効果的に配置し、併せて、学習の成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、キャリア科目及び、学外・海外での実習科目を開講する。
- (4) 各コースにおいて定める専門的知識と能力が身につくよう、各コースに専門科目を配置する。
- (5) 学部・学科を超えた授業科目を展開する一方、卒業時の学習到達目標の達成に必要な科目を選択するため、各授業科目で修得される知識・能力等を明確化したシラバスを作成する。
- (6) 各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ上に、専門分野のより高度な知識の習得を目指す「基幹プログラム」を配置する他、それらの理論や技術を活かして国際的に活躍したい学生を対象とする「国際展開プログラム」、及び、地域の活性化に貢献したい学生を対象とする「地域創生プログラム」も配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： ホームページ <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/9215/6167/9239/2019agri00.pdf> ）

(概要)

農学部は、日本有数の穀倉地帯であるとともに、豊かな自然に恵まれた庄内平野に位置しており、農学、生命科学、フィールドサイエンスなどを学ぶ場として最適の条件を備えています。本学部は食料生命環境学科と附属施設のやまがたフィールド科学センターがあり、21世紀における国内外の諸問題の解決、資源循環・環境調和型社会の創生に取り組む人材育成に向けて、活発な教育・研究を進めています。また、大学院修士課程や博士課程に進学して、学問研究をさらに深める道も開かれています。

農学部の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像（3つのC）

Challenge：知的好奇心が旺盛で、自ら課題を発見し、その解決に向かって行動できる人

Cooperation：自然と人間を愛し、人との出会いを通じて学びあいたい人

Contribution：人類社会の直面する食料問題や資源問題、環境問題などに関心を持ち、地域社会及び世界に貢献したい人

食料生命環境学科

食料生命環境学科は、1年次に山形市の小白川キャンパスにおいて基盤共通教育科目と広い意味での農学を幅広く学ぶ専門基礎科目を履修して、2年次の鶴岡キャンパスへの移行に伴い、3コースのいずれかに配属となります。2年次からはフィールドワークや実験を多く取り入れた各コースの特色のある専門的な教育を行います。各コー

スの概要は、次のとおりです。

【アグリサイエンスコース】

安全な農畜産物の持続的生産・管理を担える人材を育成します。

安全な農畜産物を持続的かつ安定的に生産するための理論や技術を学び、さらに、限られた資源（物的資源、人的資源）を有効に利用するためのマネジメントについて学びます。

【バイオサイエンスコース】

生命科学、食品科学などに関わる現場で活躍できる人材を育成します。

植物や、微生物、高等動物など多様な生物を対象とし、これらがもつ生理機能の解明、有機機能の探索・改良など、広範囲の領域を基礎から応用まで学びます。

【エコサイエンスコース】

森・水・土を知り、地域・地球環境の問題を解決できる人材を育成します。

農林業の基盤となる自然環境や生態系のメカニズム、機能を理解し、それらが産み出す恵みを享受しながら、将来に渡り持続可能な形で管理保全するための理論や技術を学びます。

◆求める学生像

- ・自然に学び、自然について深く考えることのできる人
- ・人類社会の直面する食料問題や資源問題、環境問題などの解決、生命現象の解明に正面から取り組む意欲を持ち、行動できる人
- ・論理的に思考し、表現できる人
- ・基礎的な学力を幅広く身につけている人
- ・数学、理科等の自然科学に関しては、基礎的な知識を修得するだけでなく、それを応用できる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	7人	—					7人
理学部	—	40人	22人	4人	7人	1人	74人
農学部	—	28人	26人	0人	9人	0人	63人
医学部(群) (専門課程)	—	0人	1人	1人	5人	2人	9人
人文(・)社会(科)学部	—	43人	33人	6人	0人	0人	82人
地域教育 文化学部	—	32人	21人	7人	0人	0人	60人
医学系 研究科	—	43人	27人	11人	87人	1人	169人
教育実践 研究科	—	7人	6人	0人	0人	0人	13人
理工学 研究科	—	50人	54人	0人	32人	0人	136人
有機材料 システム研究科	—	19人	8人	0人	8人	0人	35人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	351人	351人

各教員の有する学位及び業績
(教員データベース等)

公表方法：<http://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/search?m=home&l=ja>

c. F D (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)

--

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
	人	人	%	人	人	%	人	人
人文社会科学部	290 人	302 人	104.1%	1200 人	1266 人	105.5%	20 人	21 人
地域教育文化学部	175 人	182 人	104.0%	700 人	734 人	104.8%	0 人	0 人
理学部	210 人	221 人	105.2%	840 人	901 人	107.2%	0 人	0 人
医学部	165 人	165 人	100.0%	970 人	995 人	102.5%	5 人	4 人
工学部	650 人	659 人	101.4%	2,600 人	2,764 人	106.3%	0 人	2 人
農学部	165 人	171 人	103.6%	660 人	676 人	102.4%	0 人	5 人
合計	1,655 人	1,700 人	102.7%	6,970 人	7,336 人	105.2%	25 人	32 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
人文学部	323 人 (100%)	14 人 (4.3%)	282 人 (87.7%)	23 人 (7.1%)
地域教育文化学部	246 人 (100%)	23 人 (9.4%)	209 人 (85.0%)	9 人 (3.7%)
理学部	187 人 (100%)	66 人 (35.3%)	105 人 (56.2%)	12 人 (6.4%)
医学部	68 人 (100%)	5 人 (7.4%)	60 人 (88.2%)	2 人 (2.9%)
工学部	659 人 (100%)	313 人 (47.5%)	323 人 (49.0%)	13 人 (2.0%)
農学部	155 人 (100%)	32 人 (20.7%)	117 人 (75.5%)	6 人 (3.9%)
合計	1,571 人 (100%)	482 人 (27.7%)	1,016 人 (66.9%)	73 人 (4.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 医学部については、学校基本調査の就職者データに基づき、医学科を除き看護学科のみを記載した。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業の目的、授業の到達目標、授業概要（キーワード）、科目の位置付け、授業計画、学習の方法、成績の評価、テキスト・参考書、その他（学生へのメッセージ・オフィスアワー）について、シラバスに記載し、全科目をホームページで公開している。さらに、一部の学部では、ホームページに加え、冊子体のシラバスを作成している。 なお、授業計画書の作成過程は以下のとおりである。 ・ 5月頃～9月頃 教育ディレクターによる次年度の教育プログラムの作成、認定作業を行う。 作成した教育プログラムが、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーと整合性が取れるカリキュラムが編成されているか確認。必要に応じて授業科目の配置等を修正する。 ・ 9月頃～ 各授業担当者が、詳細な授業計画を作成する。 ・ 10月頃～翌年2月頃 シラバス作成開始。 各学部の教育ディレクターがシラバスの内容を確認の上、結果を教育担当理事に報告し、完成。 ・ 3月中旬～4月1日 シラバス公表開始。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】 本学の卒業の認定に関する方針は以下のとおりである。 「山形大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間以上在学し、豊かな人間性と社会性、幅広い教養と汎用的技能、所属学部において定める専門分野に関する知識と技能を身につけ、所定の科目を履修し単位を修得した者に学位を授与します。」 また、上記大学全体のディプロマ・ポリシーに加え、学部単位のディプロマ・ポリシーを策定し、学生便覧（入学時に配付）及び大学のホームページにおいて公表している。各ポリシーに則り、単位認定を行い、適切に卒業判定を行っている。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	人間文化学科	129 単位	有	24 単位
	法経政策学科	129 単位	有	24 単位
人文社会科学部	人文社会科学科	129 単位	有	24 単位
地域教育文化学部	地域教育文化学科	130 単位	有	24 単位
理学部 (旧)	数理科学科	124 単位	有	単位
	物理学科	124 単位	有	単位
	物質生命化学科	124 単位	有	単位
	生物学科	124 単位	有	単位
	地球環境学科	124 単位	有	単位
理学部	理学科	124 単位	有	24 単位
医学部	医学科	210 単位	有	単位
	看護学科	133 単位	有	単位
工学部 (旧)	機能高分子工学科	130 単位	有	単位
	物質化学工学科	130 単位	有	単位
	バイオ化学工学科	130 単位	有	単位
	応用生命システム 工学科	130 単位	有	単位
	情報科学科	130 単位	有	単位
	電気電子工学科	130 単位	有	単位
工学部	高分子・有機材料 工学科	130 単位	有	24 単位
	化学・バイオ学科	130 単位	有	24 単位
	情報・エレクトロ ニクス学科	130 単位	有	24 単位
	機械システム工学 科	130 単位	有	24 単位
	建築・デザイン学 科	130 単位	有	24 単位
	システム創成工学 科	126 単位	有	24 単位
農学部	食料生命環境学科	137 単位	有	24 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : ホームページ

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/>

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/>

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/> (ページ内大学案内)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人文社会 科学部	人文社会 科学科	535,800 円	282,000 円	円	
地域教育 文化学部	地域教育 文化学科	535,800 円	282,000 円	円	
理学部	理学科	535,800 円	282,000 円	円	
医学部	医学科	535,800 円	282,000 円	円	
	看護学科	535,800 円	282,000 円	円	
工学部	昼間コー ス	535,800 円	282,000 円	円	
	フレック スコース	267,900 円	141,000 円	円	
農学部	食料生命 環境学科	535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、平成16年度入学者からを対象に「YUサポーティングシステム」という修学支援体制を導入した。本システムは、「GPA制度」、「アドバイザー制度」、「学習サポート制度」を三つの柱として構成されている。GPA制度では、GPAの値に基づいて、学生の学習に関する相談に応じ、指導を行っている。「アドバイザー制度」では、修学面・生活面に関わらず、様々な相談に乗り、指導・助言を行うとともに、適切な関係窓口への橋渡しを行い、学生支援にも活用されている。「学習サポート制度」では、学生AA・職員が、主に学習についての相談に応じている。 ホームページ：https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/lesson/
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア専門の専任教員を2名配置している。また、各キャンパスにキャリアサポートセンターを設置し、求人検索や就職活動に関する相談の受付、就職活動に関する各種セミナーの企画、合同企業説明会の開催、OB・OGの声を聞くことができるキャリアCafeなどの運営を行っている。 また、1年次から開講しているキャリアデザインに関する授業の履修や低学年インターンシップへの参加によって、入学早期から就職を見据えた教育・支援を行っている。 ホームページ：https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/employment/
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生生活に関する支援については、多数の窓口を用意しており、学生が相談のしやすい窓口から相談し、対応を行っている。窓口は、アドバイザー教員、保健管理センター（臨床心理士、看護師、産業医等）、障がい学生支援センター、ハラスメント相談員などが主な窓口になる。そのほか、ホームページ内では夜間病院や消費生活センター等の外部機関の相談先の情報も紹介している。 なお、教職員に対して、学生支援に関する理解や対応についてFDを開催している。 また、学生をYUハートサポーターとして採用し、障がいを抱える学生の支援活動（移動やノートテイク等）を行っている。 ホームページ：https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/advice/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/education/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。